

# 瑞龍寺 花園会だより

## 第9号

(平成26年 8月発行)

発行 大圓山 瑞龍寺花園会  
 〒064-0802 札幌市中央区南2条西21丁目1-8  
 電話(011)611-3228/FAX(011)613-8458  
 編集責任者 花園会会長 長尾 章郎



### お盆の思い出

住職 皆川 彰久

死んだ父は大変厳格な人でした。毎朝、食事前には神棚と仏壇のまえでかしわ手の後合掌をして神仏を拝んでいました。子供ごころに何か畏れ多いものがありそうな気がしました。

小学生の頃、新潟三条の父の実家に、祖父の新盆供養に連れて行ってもらいました。広い川幅のある信濃川のほとりにあって、奥行き長い旧家でした。夏の夕方、たくさんの提灯や灯笼がともされ、まわりがしだいにうす暗くなってくるとそれらの明りが幻想的に闇の中から浮かび上がるようでした。

その光景にこわいながらしばらくじっと見ていると、古い家のどこからか先祖さまがこの世に現われて来るのだと感じました。お盆棚の大きなハスの葉には食べもの、くだもの他に馬や牛の型をしたキュウリとナスが添えられてあり、生者と死者が一つになったような不思議な

世界でした。お盆送りの日は、火をともした川原で盆飾りしたものをワラに包んで親戚皆でおじいさんをあの世に送り帰えました。その船形のワラは揺れながら川面の濃い闇の中へ消えてしまいました。

私の二十代の中頃父は亡くなりました。脳出血で既に手おくれでした。秋の中頃、膚寒い風が吹いていましたが天気の良い日で、家の庭のキンモクセイが日に輝いて強く匂っていました。その後、私は、長い修業生活に入り、父母のお盆を送り迎えることが出来ませんでした。小さい頃のあの盆の風景を思い出すと、父と母は今でもこの世とあの世を行ききしていると信じています。私もまた父と同じ年になってきました。

神仏の父のおつとめ

パンパンと鳴りて

目覚める残暑の朝



瑞龍寺の外壁工事が完了

栽松塔法要のご案内

日時 八月二十四日 十時三十分

真駒内滝野霊園に建立した永代供養塔『栽松塔』何らかの理由でお守り出来なくなってしまう大切なご先祖様のお骨を、皆様に代わりお寺が永代に渡り供養いたします。お気軽にご相談下さい。

問い合わせ 瑞龍寺六一一―三二二八



開山忌法要・記念講演会のお知らせ

日時 十一月二十三日

「禅について語る」

講師

臨済宗国泰寺派管長

富山国泰寺住職

臨済禅の修行道場

澤 大道 老師

昭和二十二年生まれ 六十七歳  
大谷大学卒業後、北京大学の留学を経て相国僧堂で修業後、国泰寺管長に就任。





大般若法要 1月5日



春彼岸法要 3月23日



梅祭り

## 第2回 北海道教区花園会 役員交流会に参加して

長尾章郎

今年は、7月5日～6日にかけて東神楽町のパークゴルフ場と「ホテル花かぐら」を会場に、全道から25名の役員と檀信徒が参加して行われ、瑞龍寺からは私と中川さんの2名が参加しました。パークゴルフの優勝者は、山坂の多い4コースを何と19アンダーで回った地元美瑛町観音寺の小野寺 伯さんでした。なお、来年の当番は1部と決まり、忙しくなると思います。

翌日は、早朝から各寺での青壮年部の活動と交流のあり方についての話し合いがもたれ、全道24ヶ寺の内、青壮年部を設立しているお寺は6ヶ寺しかありません。しかし青壮年部も設置を呼びかけられました。しかし青壮年部の活動内容を聞くと、バザーへの協力や「こども縁日」の開催の他には、パークゴルフはもちろんソフトボール、麻雀など娯楽を中心とした交流が多く、札幌などではなかなか馴染めないのではと思つて帰札しました。



### 秋期特別布教のお知らせ

日時 十一月一日(土) 午後二時  
場所 瑞龍寺本堂

講師 秋田県 開得寺住職  
新野 建臣 師



昭和二十三年生 六十六歳  
本山布教師として三十五年の全国布教師歴  
その間、本山常任布教師にも任命  
開得寺は当山住職の受業寺 建臣師は兄弟子に当たる

京都妙心寺 本山の団参参拝に参加して

村上 明志

この度は本山団体奉仕団の一員として、六月廿日より廿一日の二日間 にわたり、妙心寺に奉仕参拝して参りました。

参加者は花園会北海道教区一部傘下の檀信徒のほか、各寺院の和尚さんを含めて総勢三十五名の一行で、



檀信徒のうち男性は五名程度で他は女性の信者で大多数を占めておりました。また、奉仕参拝の後、引続いて京都市内と奈良の観光や、滋賀の琵琶湖、和歌山の白浜海岸などの景勝地を訪れ、自然景観を満喫しながら廿三日関西空港より帰札の三泊四日の旅でした。

先づ廿日の午後より花園会館で本山奉仕団の開会式が行われ、瑞龍寺の寺庭より、誓いの言葉が述べられ奉仕団の二日間にわたる活動が始まりました。

作務として、妙心寺の中心施設なる仏殿や法堂の床や壁などの雑巾がけを行う。床は石造りとなっており、裸足の足裏にひんやりとした触感が心地よかった。また方丈の裏庭で多分今年もお盆に灯されるであろう行燈の、古紙の剥ぎ落とし作業も水に浸しながら行う。しばらくしたところで一服茶を頂き予定の作務を終了する。また坐禅や朝食中、一切の言葉が発する事が禁止され、お代わりなどの要求も約束ごとの或る行為で意志を表すとの事。その作法には普

通人にはとまどいを感じられました。その他一般公開されない山内の、塔頭寺院である霊雲院・聖澤院を参観しました。枯淡な庭園や見事な障壁画を鑑賞し、或いは妙心寺の開創に深く関った花園法皇の簡素なる居室を拝観しその聖徳を偲びました。廿一日の昼に閉会式が行われ、参加者各人に参加章が渡され奉仕行事を終了しました。

この三泊四日の旅の夕食は、何時も一堂で会いしながら和やかに談笑が交わされる、同門同宗の「絆」を確かめあう旅でもありました。

新しく評議員になられた方のご紹介



後藤 正雄



中川 正人

編集後記

「瑞龍寺 花園会だより」第9号をお届けします。昨年度から行っていた外壁工事も終了し、裏から眺めた瑞龍寺も様相を新たにしました。5月の梅、7月のアジサイも年々立派に成長しております。お寺の行事の折りにでも一度散策などされてみては如何でしょうか。  
一昨年まで評議員をされていた中邑芳雄さんが今年1月亡くなられました。ご冥福をお祈りいたします。

花園会だより 編集委員